

空撮 (2025.7 撮影)



ひらく、ここから。

**JINTAN**  
**60th Anniversary**

開学60周年記念シンボルマーク

**未来に挑む翼「トライ・ウイング」**

「Triangle(正三角形=最小にして最強)」の形をした「Try(挑む)」するための「Wing(翼)」。たとえ小さくても確固たる意志を持ち、あるべき理想の姿に向かって羽ばたき、未来に向かって大きく飛躍する学生たちと本学を表しています。また、正三角形の内角である60度が60周年を、マークを構成する三つのエレメントがそれぞれ「学生(および卒業生)」「仁短」「地域」を表現しています。



「和敬・精進・反省」の碑（禿了信初代学長筆）



「共照」の碑（開学30周年のテーマ 故 禿了滉学園長筆）



「世灯」碑と故 禿了 滉 学園長胸像



50周年記念「仁愛兼濟」 モニュメント

## 近10年史刊行にあたって

仁愛女子短期大学  
学長

禿  
正宣

ひらくから。

Greeting



仁愛女子短期大学が昭和40年(1965)に家政科単科の短期大学としてこの森田の地で開学して以来60年の年月が過ぎました。この間、地域の短期高等教育機関として時代のニーズに応じた学科・専攻の設置あるいは改組に取り組みつつ、「仁愛兼済」の建学の精神のもとに多くの人材を輩出してまいりました。これまでの本学の歩みについては、「三十年史」および「五十年史」を刊行して節目ごとに記録を残してきたところですが、今般60周年を迎えるにあたりまして、この10年間の歩みを確実に記録し保存すべく、40周年の記念事業に倣い「近10年史」として追録を発刊することとした次第です。

この10年間の大きな出来事としては、世界を揺るがした新型コロナ・ウィルスによるパンデミックが第一にあげられます。感染防止にはともかく人と人との

接触を避けなければということから、集団活動が基本となる学校教育のあり方にも大きな影響を与えました。一方で感染防止の必要性から、それまでゆっくりした歩みであったインターネットをはじめとするデジタル技術の教育面での利用が一気に進展し、授業の特性に応じたオンデマンド方式など、多様な学び方が可能となりました。幸い本学では40周年の際に、「自ら学ぶ環境」の整備を記念事業とし、その一環としてe-learning環境の整備を行い、LMS(学習支援システム)の導入を行っていたこともあって比較的スムーズに対応できたように思いますが、AI技術の急速な拡がりなどこの分野の進歩はやむことなく、今後とも情報環境の整備や授業の工夫が、より求められていくことになると予想されます。

ただ短期大学をめぐる状況は、少子化の進行や進学構造の変化によって、この10年間で一段と厳しさを増し、全国の私立短期大学の数は大きく減少してまいりました。本学においてもかねてより人口動態及び進学動向を踏まえて、四年制大学への改組転換も含めた規模の適正化に努めてはきましたが、生活科学学科においては生活情報デザイン専攻への統合、そして栄養士養成課程については60周年を前にして廃止のやむなきに至りました。幼児教育学科では文部科学省の補助を受けて保育者養成を入学前から職場までを一連の過程としてとらえる研究に取り組みキャリア・ルーブリック

の開発を行うなど、「保育の仁短」のブランディング事業にも取り組んできましたが、保育・教育分野の職業イメージが変化し、志願者の急減に見舞われている現状にあります。

短期大学はこのように多難な状況に遭遇しておりますが、本学は県内唯一の短期大学として、地域社会の生活基盤や産業を支える専門的人材の養成はもとより、その資源を活用した地域貢献を継続していくことが重要と考えています。

先の50周年においては「学び、拓く」をテーマに掲げ、その記念事業としてキャンパスの大規模なりニューアルを行い、新たに設置された「仁愛兼済」のモニュメントのもとに、教職員一丸となって建学の精神に基づく教育・研究に努めてまいりました。この度の60周年は人の一生では「還暦」ということとなりますが、還暦はいわばリスタートの年と考えることもできます。このためにも本年史が本学の来し方を確認しつつ、新たな短期大学教育のあり方を考えるためのよすがとなればまことに幸いと考える次第です。

地域の方々におかれましては、本書を通して仁愛女子短期大学に対するご理解を深めていただき、今後ともご支援をいただきますようお願い申し上げます。刊行のことばといたします。

仁愛兼濟

さらなる挑戦

福井仁愛学園  
理事長

禿  
了修

ひらくから。



仁愛女子短期大学が、この福井市天池町に昭和40年(1965)に開学し今年60周年を迎えました。その間地元の皆さまをはじめ、県・市ご当局のご支援、学園関係各位のご尽力のお蔭で、今日を迎えることができたことは、大変有難く深く御礼申し上げます。

短期大学設立当時は、第1次ベビーブームの後で子どもの数も増え、大学進学希望者の激増が予想されました。その受入れ先として、私立大学の設置が期待される中で、仁愛学園もその大きな動きをいち早く捉え、短期大学の設置に向けて奔走したと聞いております。そして、地域社会の要望に応えるべく、家政科に引き続き保育科の開設、更には栄養士養成の開始と関係者の努力が実りました。

学園創立者の了教先生が、欧米諸国を外遊されて、その見聞を集めた『世界宗教略話』という書のなかで、「そもそも婦人の教育、その富を得ば、国いよいよ文化に進み宗教ますます盛なり。もしあやまって婦人教育をゆるがせにせば、いかなる富強の大国といえども、その国家を

衰弱ならしむるは古今の歴史、いな今日の実例によって照々たり。実に婦人と国家と親密の大関係を有することは、天に対する地の如く、日における月の如く、車鳥における輪翼の如くなり。見たまえ、天のみにして何ぞ完全の世界と称すべきかを。日のみにして万物を生育せらるるかを。一車一翼あに大道を疾行し、大空を飛翔せんや。かかる国家の盛衰に大関係を及ぼす婦人の教育を社会の度外に置き、ただ外寇の来侵のみを厭忌するは、病者服薬の緊要を欠いて速に病根の全癒を祈るが如し。誤りもまた甚しというべし。ああ日本大乘の海水に浴する兄弟らよ、自ら婦人教育の緊要を知りたまえ。」

と女性の教育の大切さを述べておられます。

了教先生は、女子教育の必要性和同時に、宗教心の養成の必要性も痛感して帰国し、仏教(大無量寿経)の『仁愛兼濟』という言葉在建学精神として明治31年(1898)に創立したのが、『婦人仁愛会教園』であり、これが仁愛学園の出発です。

仁愛学園では、これからの日本を支えていく若者たちに、仁愛の建学精神『仁愛兼濟』のこころ(いのちのいのちの深いつながりと、「生かされるいのち」であることに目覚めた感謝のこころ)から、自分としてできる精一杯の「ありがとう」の社会实践を「今日一日の慎み」を唱和することによって、自分自身のこころのよりどころとして養ってきました。

今後とも一層人間として温かく、芯の強い生き方を世に広く伝えていける人材育成に邁進していきたいと存じます。

短期大学の数は、1996年には全国で598校あったものが、1996年以降は減少傾向となり、2023年には

303校まで減少しました。ここ30年近くで、約300校が四年制大学への改組転換または統合・廃校になったと考えられます。

仁愛女子短期大学は、現在では県内で唯一の短期大学となっていますが、これまで短い就業期間で保育士などの専門職業人材や、地域コミュニティの基盤となる人材を育成し地元福井に定着することで地域に貢献して参りました。

開学60周年を契機として、今後も短期大学としてこれからの福井を支える若者たちに対し、大きく変化していく生活環境に適応した教育を行いながら、地域の要請に応え福井県の発展に寄与していけたらと考えております。

今後一層のご支援よろしくお願い申し上げます。

合掌

### 今日一日の慎み

- 今日一日 四つの恩を忘れず、  
不足の思いをなさぬこと
- 今日一日 腹を立てぬこと
- 今日一日 うそを言わず、  
無理なることをなさぬこと
- 今日一日 人の悪を言わず、  
己の善を言わざること
- 今日一日の存命を悦び、  
課業を大切に勤むべきこと

上は今日一日の慎みにて候

「近10年史」発刊にあたって

同窓会六和会 会長

大久保郁子

ひらくから。

Greeting



仁愛女子短期大学開学60周年おめでとうございます。心からお喜び申し上げます。

建学の精神「仁愛兼済」のもと、豊かな人間性と高い専門性とを育む女子のための教育が60年に亘って継続され、これまでに2万人を超える卒業生を社会に送り出してくださいました。福井県内の女性19人に1人は仁愛短大の卒業生と知り、また私もその一人として、感謝と喜びを深く感じております。

平成27年(2015)の開学50周年から10年が経ちました。この10年の間には、全世界が恐怖に怯えた未知の世界のコロナウイルスとの戦いが

約5年間続きました。この間、私たちの行動、考え方、コミュニケーションの取り方が大きく変化したと思います。

本学におきましても授業形態に大きな変化が生じ、当たり前のようにあった表情を見ながらの「相互理解の授業」が難しい状態が続きました。この経験から私たちは直接に人と関わることがいかに大切かを実感しました。しかし、新型コロナウイルス感染症が5類感染症になり以前のような日常生活が戻ってきましたが、私たちの考え方や行動が全て元通りには戻ることができず、コミュニケーションのあり方にも新しい時代が到来したように感じております。

私が第5代同窓会会長に就任しましたのも、丁度コロナ禍の令和3年(2021)でした。長年同窓会を牽引された前会長の渡邊友子氏の功績はとても大きく、平成29年(2017)には同窓会「六和会」創立50周年記念行事を盛大に終えられました。偉大な前会長からのバトンを受け継ぐことは、実績のない私にとってはとても責任の重いもので、会員の方々に支えていただきながら役目を全うしております。卒業生の一人として仁愛短大附属幼稚園に7年間勤務

し、現在は短大の非常勤講師としてレクリエーション・インストラクター養成のための講座を担当しております。更に、同窓会会長という職と共に学生たちとの関りが続けていけることは、私自身の学びであり、大きな喜びでもあります。

同窓会「六和会」の役割は、「仁愛兼済」の精神のもと60年の歴史を大切にしながら、社会へと飛び立った卒業生と母校との大きなパイプ役になることだと思います。本会におきましても、ホームページの充実努力いたしており、確実に正確な情報発信のデジタル化を進めております。今後も様々なニーズに対応しながら支援事業の充実を図り、母校の発展と共に、同窓会も充実した活動ができるように努力して参りたいと思います。

仁愛女子短期大学の今後の10年は、どのような歴史を刻んでいくのかとても楽しみです。母校の益々の発展を願いまして、仁愛女子短期大学開学60周年のお祝いのことばとさせていただきます。

# Index

## あいさつ

近10年史刊行にあたって	仁愛女子短期大学 学長	禿 正宣	6
仁愛兼済 さらなる挑戦	福井仁愛学園 理事長	禿 了修	8
「近10年史」発刊にあたって	同窓会六和会 会長	大久保郁子	10

第1部 目で見える近10年史	.....	18
----------------	-------	----

## 第2部 近10年の歩み

第1章 沿革	.....	30
--------	-------	----

### 第2章 近10年の歩み

1. 生活科学学科	.....	40
-----------	-------	----

- 1) 学科の歩みと現状
- 2) 各専攻の歩みと現状

2. 幼児教育学科	.....	52
-----------	-------	----

- 1) 学科の歩みと現状
- 2) 保育者養成と実習
- 3) その他の諸活動



---

<b>3. 学生の活動</b> .....	<b>64</b>
1)キャンパスライフの変遷	
2)教育課程および履修制度の整備	
3)課外教育の推移	
4)学生の福利厚生	
5)入学者選抜の流れ	
6)就職対策と現状	
7)学生会活動	
<b>4. 地域との連携</b> .....	<b>71</b>
1)活動の歩み	
2)特色ある活動実践	
<b>5. 施設設備の整備拡充</b> .....	<b>74</b>
1)2015年度～2019年度	
2)2020年度～2024年度	
<b>6. 情報資源センター</b> .....	<b>76</b>
1)情報メディア教育支援室	
2)附属図書館	
<b>7. 点検評価推進室</b> .....	<b>80</b>
1)自己点検・評価活動の概要	
2)平成30年度(2018)飯田女子短期大学との相互評価について	
3)「一般財団法人短期大学基準協会」による認証評価	
4)今後の活動	

---

---

8. 附属幼稚園	82
1) 幼稚園の歩みと現状	
2) みのり会	
3) その他	
9. 同窓会	86
1) 同窓会の歩み	
2) 近10年の活動	
3) 六和会の支援事業	
4) 六和会後援活動	
5) 会の充実と展望	

### 第3部 企画

1. 禿了滉学園長先生追悼	94
2. コロナ禍の短大生活	96
1) 生活科学学科	
2) 幼児教育学科	
3) 総合学務センター	
4) 事務局	
5) 情報資源センター	
3. 教職員からの一言メッセージ	110

---

---

## 第4部 資料にみる10年

1. 学科・専攻・コースの変遷	120
2. 入学・卒業生数	121
3. 就職状況	123
4. 教職員の栄典	124
5. キャンパス変遷図	125
6. 運営機構変遷	131
7. 教職員(現職)	135
8. 教職員(旧教職員)	137
9. 歴代役員・役職	140
10. 学園内異動者	143
11. 学校法人福井仁愛学園役員等	144
12. 公開講座	145
13. 学内発行物目録	148
14. 新聞でつづる10年	150

ひらく、ここから(学長ほか各部署の集合写真)

編集後記

編集委員名列

---





第1部 ■

# 目で見える近10年史

# 目で見る近10年史



仁愛女子短期大学開学50周年記念式典(2015.10)



C館改修等の起工式(2015.6)

## 2015-2016



生活科学学科 生活環境専攻  
フクイ夢アートに参加(2015.10)



第50回卒業式(2016.3)

生活科学学科  
食物栄養専攻・生活環境専攻  
「ベジ・ガールズ任命式」と  
「ロゴマークポスターお披露目会」  
(2016.7)





生活科学学科 生活情報専攻  
ネパールでボランティア活動  
(2017.2)



関係者によるテープカット



新C館 OPEN(2017.3)



学生会代表あいさつ

# 2017-2018



生活科学学科 生活デザイン専攻  
もりた夢駅～冬物語～(2017.12)



附属幼稚園新園舎



福井しあわせ元気大会サポートボランティア(2018.10)



仁短祭 ステージイベントで盛り上がる観客(2018.10)



幼児教育学科  
学外発表会(2020.2)



幼児教育学科  
ホームカミングデー(2019.10)

# 2019-2020



後期より対面授業再開  
(2020.7)



花を付けた「千年桜」



ハイブリッド形式(オンライン参加と学内参加)の仁短祭(2020.10)



故 禿了滉学園長を偲ぶ会(2021.5)



リモート形式の入学式(2021.4)



生活科学学科  
コロナ禍の授業風景(2021.後期)



コロナ禍の幼児教育学科運動会(2021.10)

# 2021-2022



JINTANSAI IN SHIWASU(2021.12)



学生によるオープンキャンパス(2022.6)



県内高校生による  
保育現場体験ツアー  
(2021.12)

生活科学学科 生活デザイン専攻  
学内での卒展(2021.2)



福井プレカレッジ(2022.10)



卒業生と教職員のみで開催された卒業式(2022.3)



生活科学学科 生活情報デザイン専攻  
台湾研修旅行(2023.9)



# 2023-2024



県内高校生による保育現場体験ツアー(2023.12)



仁短ランチデー  
「おにぎり専門店Sanshimai」さんとのコラボ企画  
(2024.6)



カフェテリアで卒業パーティー(2024.3)

# 開学60周年記念特別AH

令和7年(2025)5月12日(月)



禿正宣学長講話

公式キャラクター名  
公募により「あいたん」に決定



六和会大久保会長より寄付目録贈呈

# 2025



クラス対抗 スポーツ大会「ラジオ体操」



未来の私に向けた  
「未来へのことば」を考える学生



クラス対抗 スポーツ大会  
「大縄跳び」



「60周年記念 60本の灯」が  
プリントされたハチマキ



学食で使える60円券(10枚)



「未来へのことば」が  
掲載されたタペストリー

「未来へのことば」の  
懸垂幕

# 生活科学学科企画 開学60周年記念シンポジウム

地域で学ぶ探究のすゝめ 身土不二な学びでひらくエージェンシー

令和7年(2025)10月29日(水)



# 2025

## 事例報告



「海外でのボランティア活動  
～ネパール復興支援での気づきと次への行動～」

小川 日子 氏

## 事例報告



「私と地域とこれから」

西澤 穂乃花 氏

## 事例報告



「授業設計と事例紹介」

澤崎 敏文 教授



真剣な表情で聞き入る学生たち

### 基調講演

## 「活躍と両立を支える地域へ わたしらしく生きる力が福井の未来を創る」

福井県副知事 鷲頭 美央 氏



開会挨拶・趣旨説明



### パネルディスカッション



# 幼児教育学科企画 開学60周年記念シンポジウム

## これからの保育のあり方を展望する

～幼稚園教育要領・保育所保育指針の改訂を見通して～

令和7年(2025)12月6日(土)



開会の挨拶

# 2025



### 第1部 基調講演

福井大学大学院教授  
岸野 麻衣 氏

(文部科学省・今後の幼児教育の教育課程指導  
評価等の在り方に関する有識者検討会委員)



- これからの保育に向けて
- ・これまで、遊びの中で子どもの学びを丁寧に見え
  - ・保育者の役割や関係性を再考していくこと
  - ・小学校での学びにどうつながるのか、方向性を明らかに
  - ・学びの機会を創出して学び合っていくこと



## 第2部 ディスカッション



福井大学大学院教授 岸野 麻衣 氏  
 仁愛女子短期大学・幼児教育学科教授 石川 昭義 氏  
 仁愛女子短期大学・幼児教育学科教授 増田 翼 氏  
 仁愛女子短期大学・幼児教育学科准教授 川崎 恵理 氏

